

Title	歯の神様
Author(s)	大木, 貴博
Journal	歯科学報, 119(6): 6i-6i
URL	http://hdl.handle.net/10130/5083
Right	
Description	



歯の神様

大 木 貴 博

私はわずかでも休暇が取れる度に、ひとり旅に出ます。目的の第一は神社巡りです。日本全国には小さなお社も含めて神社は約12万社あるそうです。お寺の数が約7万、歯科医院の数も7万、コンビニが6万ですから、毎日のようにそこかしこで見かけていることになります。神社にはいろいろと分類があって、〇〇八幡、〇〇稲荷、〇〇天神など、祀られている神様による系統のような分類や、明治時代に定められた官幣社や国幣社のような分類もあります。因みに八幡様は応神天皇のことで、武力の象徴です。稲荷は“稲が成る”からくる言葉で、基本的には農耕神です。天神様は菅原道真のことで、天災を鎮める意味があります。

古く平安時代に有力神社として選ばれた二十二社の中には伊勢神宮、春日大社、住吉神社のような有名神社があります。時代を少し下って延喜式という法律書の中では、各国の国司が最も重きを置いた一ノ宮神社が定められています。武蔵国の一ノ宮は大宮氷川神社、下総一ノ宮は香取神宮です。一ノ宮神社は昭和の時代に追加された新一ノ宮も加え全国に百余りあり、私はそれを片っ端から巡り続け、御朱印を参拝の証拠に集めています。現在までにおよそ八割の御朱印を頂きましたが、一ノ宮を巡拝するには必ずその町々、あるいは村々の風景と接することになります。遠く西海道、南海道の国々などを訪ねるときには当然夜の風景、夜明けの風景とも巡り会います。歴史ある神社を参拝しながら神秘的な絶景を堪能させてもらうのが、神社巡りひとり旅の醍醐味です。

旅は全国47都道府県に渡りますが、これまで参詣してきた神社は、境内が広く立派で観光地にもなっている神社から、既に荒廃してしまって鳥居と本殿のみが残り、宮司さんが常駐していない神社まで、様々でした。鶴岡八幡宮や巖島神社など有名な神社では寺社ガールや外国人も多く、列に並んで御朱印をもらうのもひと苦労だったりしますが、誰もいないような神社では宮司自宅まで電車に乗って御朱印をもらいに行くなど、それもまたひと苦労だったりしました。御朱印が自動販売機で売っているところもありました。それらもまた旅の一興で、平安時代から令和まで流れる時間を肌身で感じられるひとときです。

そんな私でもお正月を迎えれば自宅近所の神社に初詣に出ます。令和最初の元旦にも荻窪白山神社という私の氏神に参りました。荻窪白山神社は私が生まれて間もないときにお宮参りをし、毎年のようにお参りしている神社ですし、私の息子も初宮参りは荻窪白山神社です。ところが最近、ひよんなことから驚くことがわかりました。なんと荻窪白山神社は歯の神様として知られているとのことでした。

日本歯科医師会のホームページには以下のようにあります。「荻窪白山神社は旧下荻窪村の鎮守様で、御祭神は伊邪那美尊です。文明年間(1469~1486年)に、関東菅領上杉顯定の家臣・中田加賀守が加賀の白山比咩神社より分神を勧請してこの地にお祀りしたのが始まりということです。上杉顯定の落居の後、中田加賀守は野に下り百姓となって名を大学と改めました。常に敬神の念が厚く、邸内に5社を勧請して崇め祀っていたのが白山神社の縁起です。大学の弟兵庫が常に歯痛に悩まされていると、ある晩枕もとに『社前に生える萩を以て箸を作り、これにて食事をすれば歯痛すなわち癒えん』と神託があり、お告げ通りに萩の箸を作り食事を摂ると、歯痛が直ちに治ったと言われます。この噂が村人に拡がり、遠近から多くの歯痛に悩む者が参拝するようになり、現在に至っている。」実際、私の息子がお宮参りした際にはお箸とお食初めに用いる小石を頂戴致しました。神社好きの私ですが、まさかこんな身近に『歯の神様』がいらっしやっただとは！私が東京歯科大学でお世話になっているのも氏神様の思し召しかも知れません。年を新たに、循環器内科診療における尽力は勿論、改めて歯科医学への貢献を誓う私でした。

(東京歯科大学市川総合病院循環器内科 教授)